Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

Nagoya Glorious Chapel

2025.11.17-23

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

17日　月曜

ヨシュア

4:15 【主】はヨシュアに告げられた。
4:16 「ヨルダン川から上がって来るよう、あかしの箱を担ぐ祭司たちに命じよ。」
4:17 それでヨシュアは祭司たちに「ヨルダン川から上がって来なさい」と命じた。
4:18 【主】の契約の箱を担ぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中から上がって来て、祭司たちの足の裏が水際の乾いた陸地に上がったとき、ヨルダン川の水は元の場所に戻り、以前のように、川岸いっぱいに満ちて流れた。
4:19 さて、民は第一の月の十日にヨルダン川から上がって、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。
4:20 ヨシュアは、ヨルダン川から取ったあの十二の石をギルガルに積み上げ、
4:21 イスラエルの子らに言った。「後になって、あなたがたの子どもたちがその父たちに『この石はどういうものなのですか』と尋ねたときには、
4:22 あなたがたは子どもたちに『イスラエルは乾いた地面の上を歩いて、このヨルダン川を渡ったのだ』と知らせなさい。
4:23 あなたがたの神、【主】が、あなたがたが渡り終えるまで、あなたがたのためにヨルダン川の水を涸らしてくださったからだ。このことは、あなたがたの神、【主】が葦の海になさったこと、すなわち、私たちが渡り終えるまで、私たちのためにその海を涸らしてくださったのと同じである。
4:24 それは、地のあらゆる民が【主】の手が強いことを知るためであり、あなたがたがいつも、自分たちの神、【主】を恐れるためである。」

Bible Reference 聖書の記述

主のあかしの箱が上がると、「ヨルダン川の水は元の場所に戻り、以前のように、川岸いっぱいに」なりました。主のみわざがなかったら、民はこの水の中で溺れていたことでしょう。

私たちも、主のみわざがなかったなら、このように困難の中で溺れていたのです。時々、主の恵を忘れて、自分で努力して前進したような錯覚に囚われてしまうことがあるかもしれません。主のみわざがあったことを、心に留めましょう。もしかしたら忘れていることや、気づかないでいたこともあるかもしれません。もう一度、これまでの人生を思い起こして、感謝しましょう。

そして「神、【主】が、あなたがたが渡り終えるまで、あなたがたのためにヨルダン川の水を涸らしてくださったからだ。」というように、主の証を伝えましょう。もしも伝えるのが難しいなら、人々に分るような何か（１２の石のように）を工夫しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

18日　火曜

ヨシュア

5:1 ヨルダン川の反対側、すなわち西側にいるアモリ人のすべての王たちと、海沿いにいるカナン人のすべての王たちは、【主】がイスラエル人の前で、彼らが渡り終えるまでヨルダン川の水を涸らしたことを聞くと、心が萎え、イスラエル人のゆえに気力を失ってしまった。
5:2 そのとき、【主】はヨシュアに告げられた。「火打石の小刀を作り、もう一度イスラエルの子らに割礼を施せ。」
5:3 ヨシュアは自ら火打石の小刀を作り、ギブアテ・ハ・アラロテでイスラエルの子らに割礼を施した。
5:4 ヨシュアが割礼を施した理由はこうである。エジプトを出たすべての民のうち男子、すなわち戦士たちはすべて、エジプトを出てから途中で荒野で死んだ。
5:5 出て来た民はみな割礼を受けていたが、エジプトを出てから途中で荒野で生まれた民はみな、割礼を受けていなかった。
5:6 イスラエルの子らは四十年間荒野を歩き回り、その間に民全体が、すなわちエジプトを出た戦士たち全員が、死に絶えてしまったからである。彼らが【主】の御声に聞き従わなかったので、私たちに与えると【主】が彼らの父祖たちに誓った地、乳と蜜の流れる地を、【主】は彼らには見せないと誓われたのである。
5:7 そして、息子たちを彼らに代わって起こされた。ヨシュアは彼らに割礼を施したのである。彼らが途中で割礼を受けておらず、無割礼だったからである。
5:8 民はみな割礼を受けると、傷が治るまで宿営の自分たちのところにとどまった。
5:9 【主】はヨシュアに告げられた。「今日、わたしはエジプトの恥辱をあなたがたから取り除いた。」それで、その場所の名はギルガルと呼ばれた。今日もそうである。
5:10 イスラエルの子らはギルガルに宿営し、その月の十四日の夕方、エリコの草原で過越のいけにえを献げた。
5:11 過越のいけにえを献げた翌日、彼らはその地の産物、種なしパンと炒り麦を、その日のうちに食べた。
5:12 マナは、彼らがその地の産物を食べた翌日からやみ、イスラエルの子らがマナを得ることはもうなかった。その年、彼らはカナンの地で収穫した物を食べた。
5:13 ヨシュアがエリコにいたとき、目を上げて見ると、一人の人が抜き身の剣を手に持って彼の前方に立っていた。ヨシュアは彼のところへ歩み寄って言った。「あなたは私たちの味方ですか、それとも敵ですか。」
5:14 彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。」ヨシュアは顔を地に付けて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をこのしもべに告げられるのですか。」
5:15 【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足の履き物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる場所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

地の王たちは「心が萎えて」しまったのですから、今こそ攻め上るチャンスです。しかし主はその前に割礼を命じました。割礼とは男性器の皮を切るのですから、回復までには時間がかかり機会をのがすことになってしまいます。

ここに主のみこころがあります。そもそも勝利とは主の栄光の、主の御計画のためです。以前のイスラエルは「 主の御声に聞き従わなかったので」、約束の地に入ることができなかったのです。つまり重要なのは、人間的なチャンスではなく、主のみこころにかなうかどうかなのです。それはカナンに入ってからも同じでした。

チャンスが来ると、主のみこころと思い込んで、すぐに進んでしまいがちですが、大切なのは主に従っているかどうかなのです。主が前進の前に、かつてのイスラエルの不従順を思い起こさせ、今一度主への従順を求めたのもそのためです。前進の前に、決断の前に、チャンスに乗る前に、主の民であることを表し、従順を回復しましょう。

これから前進しようとするときに、過ぎ越しのいけにえをささげることで、救いは主にあることと主こそ礼拝されるべき絶対者であることが、民の心に明かにされました。それによって民はこれから住む場所の食物を食べて、その心構えとしました。マナがなくなったのは、勝利の先取りです。前進あるのみという信仰を明かにされたのです。

またヨシュアに現れた「主の軍の将」は、誰の味方とも告げずに、主の軍であることを告げました。すなわち人間が先にあって、主がそれに味方してくださるのではなく、主の戦いが初めにあって、私たちがそれにつくかどうかなのです。

主を自分のために利用することはできません。それでは人間同士の争いに利用されてしまうでしょう。主の尊い愛の御計画があるのですから、それに従いますしょう。それには足からくつを脱いで、主のしもべになることが必要です

①神のみこころは？　②どんな思いになりましたか？　③生き方にどう適用しますか？　④この世にあって何を実践しますか？

19日　水曜

ヨシュア

6:1 エリコはイスラエルの子らの前に城門を堅く閉ざして、出入りする者はいなかった。
6:2 【主】はヨシュアに告げられた。「見よ、わたしはエリコとその王、勇士たちをあなたの手に渡した。
6:3 あなたがた戦士はみな町の周りを回れ。町の周囲を一周せよ。六日間そのようにせよ。
6:4 七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を手にして、箱の前を進め。七日目には、あなたがたは七回、町の周りを回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らせ。
6:5 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたら、民はみな大声でときの声をあげよ。そうすれば町の城壁は崩れ落ちる。民はそれぞれ、まっすぐに攻め上れ。」
6:6 ヌンの子ヨシュアは祭司たちに呼びかけた。「契約の箱を担ぎなさい。七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を持ち、【主】の箱の前を進みなさい。」
6:7 そして民に言った。「進んで行き、町の周りを回りなさい。武装した者たちは【主】の箱の前を進みなさい。」
6:8 ヨシュアが民にそう言ったとき、七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の前を進み、角笛を吹き鳴らした。【主】の契約の箱はそのうしろを進み、
6:9 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら箱のうしろを進んだ。
6:10 ヨシュアは民に命じた。「あなたがたはときの声をあげてはならない。声を聞かせてはならない。口からことばを出してはならない。『ときの声をあげよ』と私が言うその日に、ときの声をあげよ。」
6:11 こうして【主】の箱は町の周りを回り、その周囲を一周した。彼らは宿営に帰り、宿営で夜を過ごした。
6:12 翌朝ヨシュアは早く起き、祭司たちは【主】の箱を担いだ。
6:13 七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の箱の前を進み、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは、彼らの先頭に立って行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら【主】の箱のうしろを進んだ。
6:14 彼らは二日目も町の周りを一周回り、宿営に帰った。六日間そのようにした。

Bible Reference 聖書の記述

エリコの城壁を攻撃する方法は、人間の常識を超えたものでした。そのやり方には何の論理的な根拠もありません。ただ主がお命じになったというだけです。しかし、そこには信仰的な根拠がありました。

七回まわるということについては、七は完全数を表しますから、主への従いが十分であることを表します。城壁の周りを歩くというのは、攻撃されやすいですから、そこには主に委ねてリスクを負う信仰の勇気があります。

この世の常識に沿うことでしたら、主に従いやすいのですが、主はときとして私たちに常識を越えた従いを要求なさいます。それは私たちに主御自身に従う信仰があるかどうかを、試すためでもあります。

もちろんそこには主の全能の知恵があることは言うまでもありません。自分の判断よりも主の御命令、みこころを第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

20日　木曜

ヨシュア

6:15 七日目、朝早く夜が明けかかるころ彼らは起き、同じようにして町の周りを七周回った。この日だけは町の周りを七周回った。
6:16 七周目に祭司たちが角笛を吹き鳴らしたとき、ヨシュアは民に言った。「ときの声をあげよ。【主】がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。
6:17 この町とその中にあるすべてのものは【主】のために聖絶せよ。遊女ラハブと、その家にともにいる者たちだけは、みな生かしておけ。彼女は私たちが送った使いたちをかくまってくれたからだ。
6:18 あなたがたは聖絶の物には手を出すな。あなたがた自身が聖絶されないようにするため、すなわち、聖絶の物の一部を取ってイスラエルの宿営を聖絶の物とし、これにわざわいをもたらさないようにするためである。
6:19 ただし、銀や金、および青銅や鉄の器はすべて【主】のために聖別されたものである。それらは【主】の宝物倉に入れよ。」
6:20 民はときの声をあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。角笛の音を聞いて民が大声でときの声をあげると、城壁は崩れ落ちた。そこで民はそれぞれ、まっすぐに攻め上り、その町を攻め取り、
6:21 町のものをすべて、男も女も若者も年寄りも、また牛、羊、ろばも剣の刃で聖絶した。
6:22 ところで、ヨシュアはこの地を偵察した二人の男に言った。「あの遊女の家に行き、あなたがたが彼女に誓ったとおり、その女とその女に連なるすべての者を連れ出しなさい。」
6:23 偵察した若者たちは行って、ラハブとその父、母、兄弟、彼女に連なるすべての者を連れ出した。彼女の親族をみな連れ出し、イスラエルの宿営の外にとどめておいた。
6:24 彼らはその町とその中にあるすべてのものを火で焼いた。銀や金、および青銅や鉄の器だけは【主】の家の宝物倉に納めた。
6:25 しかし、遊女ラハブと、その一族と、彼女に連なるすべての者をヨシュアが生かしておいたので、彼女はイスラエルの中に住んで今日に至っている。エリコを偵察させようとしてヨシュアが送った使いたちを、彼女がかくまったからである。
6:26 ヨシュアは、そのとき誓った。「この町エリコの再建を企てる者は【主】の前にのろわれよ。その礎を据える者は長子を失い、その門を建てる者は末の子を失う。」
6:27 【主】がヨシュアとともにおられたので、彼のうわさはこの地にあまねく広まった。

ヨシュアは勝利の前に、民にその後のことまでも指示しました。主のみわざを信じていたからです。私たちも主にこのように信頼する者でありたいと思います。

またそれは勝利だけが目的ではないことが分ります。ラハブとその家族を救うようにと、信仰による救いの型を示すために指示を出しました。すなわち主の栄光とみこころを表すための勝利なのです。

私たちの人生の戦いも同じです。主に信頼するのは、それが主の栄光のための戦いであるときだけです。

聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

21日　金曜

ヨシュア

7:1 しかし、イスラエルの子らは聖絶の物のことで主の信頼を裏切った。ユダ部族のゼラフの子ザブディの子であるカルミの子アカンが、聖絶の物の一部を取った。それで、【主】の怒りがイスラエルの子らに向かって燃え上がった。
7:2 ヨシュアは部下をエリコからベテルの東、ベテ・アベンの近くにあるアイに遣わし、彼らに言った。「上って行って、あの地を偵察せよ。」部下たちは上って行って、アイを偵察した。
7:3 彼らはヨシュアのもとに帰って来て言った。「民をみな上って行かせるには及びません。二、三千人ぐらいを上らせて、アイを討たせるとよいでしょう。彼らはわずかですから、民をみな送って骨折らせるには及びません。」
7:4 そこで民のうち、およそ三千人がそこに上って行ったが、彼らはアイの人々の前から逃げた。
7:5 アイの人々は彼らの中の三十六人を打ち殺し、彼らを門の前からシェバリムまで追って、下り坂で彼らを討った。民の心は萎え、水のようになった。
7:6 ヨシュアは衣を引き裂き、イスラエルの長老たちとともに、【主】の箱の前で夕方まで地にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。
7:7 ヨシュアは言った。「ああ、【神】、主よ。あなたはどうして、この民にヨルダン川をあえて渡らせ、私たちをアモリ人の手に渡して滅ぼそうとされるのですか。私たちは、ヨルダンの川向こうに居残ることで満足していたのです。
7:8 ああ、主よ。イスラエルが敵の前に背を見せた今となっては、何を申し上げることができるでしょう。
7:9 カナン人やこの地の住民がみな、これを聞いて私たちを攻め囲み、私たちの名を地から断ってしまうでしょう。あなたは、あなたの大いなる御名のために何をなさるのですか。」
7:10 【主】はヨシュアに告げられた。「立て。なぜ、あなたはひれ伏しているのか。
7:11 イスラエルは罪ある者となった。彼らはわたしが命じたわたしの契約を破った。聖絶の物の一部を取り、盗み、欺いて、それを自分のものの中に入れることまでした。
7:12 だから、イスラエルの子らは敵の前に立つことができず、敵の前に背を見せたのだ。彼らが聖絶の者となったからである。あなたがたの中から、その聖絶の物を滅ぼし尽くしてしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。
7:13 立て。民を聖別せよ。そしてこう言え。あなたがたは、明日のために自らを聖別しなさい。イスラエルの神、【主】がこう告げられるからだ。『イスラエルよ、あなたの中に聖絶の物がある。あなたがたがその聖絶の物を、あなたがたの中から取り除くまでは、敵の前に立つことができない。
7:14 明日の朝、部族ごとに進み出よ。【主】がくじで取り分ける部族は氏族ごとに進み出、【主】がくじで取り分ける氏族は家族ごとに進み出、【主】がくじで取り分ける家族は男一人ひとり進み出よ。
7:15 聖絶の物のことでくじで取り分けられた者は、彼も彼に属するすべてのものも、火で焼かれなければならない。彼が【主】の契約を破ったからであり、彼がイスラエルの中で恥辱となることをしたからである。』」

到底攻め取ることできないようなエリコの城を、無謀とも思えるような方法で、イスラエルは勝ち取ることができました。それは主に従ったからです。

一方、簡単に攻め取れると思えたアイを、三千人という理にかなった人数で攻めましたが、敗北となってしまいました。主に従わなかったからです。

このように勝利か敗北かは、すべて主によるのです。自分がどれほど有利か、勝ち目があるか、能力があるかは、主の前には役に立たないということを知りましょう。ただ主に従いましょう。

アカンがしたことは、主の栄光を自分の利益に変えてしまったことです。これは教会でも、人生でも気をつけるべきことです。この点できよい者となる必要があります。そうでないと、せっかくの主の栄光が、価値のないものになってしまいます。常に主の栄光を求めましょう。自分のために与えられるものは、主からいただくのですから、それを楽しみに待ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

22日　土曜

ヨシュア

7:16 翌朝ヨシュアは早く起き、イスラエル
を部族ごとに進み出させた。ユダ部族がくじ
で取り分けられた。
7:17 ユダの諸氏族を進み出させると、ゼラフ
人の氏族がくじで取り分けられた。ゼラフ人
の氏族を男一人ひとり進み出させると、ザブ
ディがくじで取り分けられた。
7:18 ザブディの家族を男一人ひとり進み出さ
せると、ユダ部族のゼラフの子ザブディの子
カルミの子のアカンが、くじで取り分けられ
た。
7:19 ヨシュアはアカンに言った。「わが子よ。
イスラエルの神、【主】に栄光を帰し、主に
告白しなさい。おまえが何をしたのか、私に
告げなさい。私に隠してはいけない。」
7:20 アカンはヨシュアに答えた。「確かに、
私はイスラエルの神、【主】に対して罪を犯
しました。私は次のようなことをしました。
7:21 私は分捕り物の中に、シンアルの美しい
外套一着と、銀二百シェケルと、重さ五十
シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て欲
しくなり、それらを取りました。それらは今、
私の天幕の中の地面の下に隠してあり、銀も
そこにあります。」
7:22 そこでヨシュアは使いたちを送った。彼
らは天幕に走って行った。すると、それらは
アカンの天幕に隠されていて、銀もその下に
あった。
7:23 使いたちはそれらを天幕の中から取り出
し、ヨシュアとすべてのイスラエルの子らの
ところに持って来て、【主】の前に置いた。
7:24 ヨシュアは全イスラエルとともに、ゼラ
フの子アカンと銀、外套、金の延べ棒、およ
び彼の息子、娘、牛、ろば、羊、天幕、そ
れに彼のすべての所有物を取って、アコル
の谷へ運んだ。
7:25 ヨシュアは言った。「なぜ、おまえは
私たちにわざわいをもたらしたのか。
【主】は今日、おまえにわざわいをもたら
される。」全イスラエルは彼を石で打ち殺
し、彼の所有物を火で焼き、それらに石を
投げつけた。
7:26 人々はアカンの上に石くれの大きな山
を積み上げた。今日もそのままである。
【主】は燃える怒りを収められた。それで、
その場所の名はアコルの谷と呼ばれた。今
日もそうである。

Bible Reference 聖書の記述

神様は創造のみわざを通して、御自身の御性質を表しておられますが、同じように様々な出来事としてのみわざによっても、その御性質を表しなさいます。今イスラエルが約束の地であるカナンに入ることを通しても、主は御自身を表すはずですから、ただ勝利すれば良いというのではないのです。

もしもアカンの不正を見過ごしになさったままで、カナンに入ったなら、主の聖なることがないがしろしなってしまいます。主のみわざにによって勝利・成功を与えられる者は、主を証しするものでなければならないのです。

私たちは主に様々なことを祈り求めますが、それらが主の証しになっているでしょうか。そのために求めているでしょうか。もしも主の御名を貶めるようなことがあるなら、主は見過ごしにされません。アカンが人には隠せても、主には明らかであったように、私たちの心にあるものや行っていることは隠すことができあないのです。

しかし、主にきよめていただくなら、その罪を赦し、悪からきよめていただくことができます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

23日　日曜

ヨシュア

8:1 【主】はヨシュアに言われた。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民をすべて率い、立ってアイに攻め上れ。見よ、わたしはアイの王と、その民、その町、その地をあなたの手に与えた。
8:2 あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。その分捕り物と家畜だけは、あなたがたの戦利品としてよい。あなたは町の裏手に伏兵を置け。」
8:3 そこでヨシュアは戦う民すべてとともに、アイに上って行くために立ち上がった。ヨシュアは三万人の勇士を選んで夜のうちに派遣し、
8:4 彼らに命じた。「見よ、あなたがたは町の裏手から町に向かう伏兵だ。町からあまり遠く離れないで、みな身構えていなさい。
8:5 私と、私とともにいる兵はみな町に近づく。アイの人々がこの前と同じように、私たちに立ち向かって出て来たら、私たちは彼らの前から逃げることにする。
8:6 彼らは私たちを追って出て来るので、私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは『この前と同じように、われわれの前を逃げて行く』と言うだろうから。私たちは彼らの前で逃げることにする。
8:7 あなたがたは伏せているところから立ち上がり、町を占領せよ。あなたがたの神、【主】がその町をあなたがたの手に渡される。
8:8 その町を攻め取ったら、その町に火を放て。【主】のことばどおりに行うのだ。見よ、私はあなたがたに命じる。」
8:9 ヨシュアは彼らを派遣し、彼らは待ち伏せの場所へ行き、ベテルとアイの間、アイの西側にとどまった。ヨシュアはその夜、兵とともに夜を過ごした。

Bible Reference 聖書の記述

神に創造された私たち人間にとって、永遠とは神と共に過ごすか断絶されて過ごすかの、どちらかしかありません。神との断絶こそが人間にとって最大の苦しみであり絶望です。

そしてそのどちらかは、人間自身の選択にかかっています。主との永遠の祝福すなわち天国をえらぶか、断絶である地獄を選ぶかです。神である主はそのことを人類に知らせる必要があるとお考えになって、聖書を記してくださいました。

このアイの戦いと聖絶はまさに、永遠か滅びかを明確に表しているものと言えるでしょう。アイの人々は、忌まわしい偶像に仕えてまことの神に敵対していました。まさに滅びに向かっていたのです。もしもそれをいい加減にして残しておいたなら、イスラエルも影響されて神に敵対するようになってしまうのです。それはその後の歴史からも明らかです。

人の命はもちろん大切で、主の律法にも「殺してはいけない」とあります。しかし、主は肉体の命よりも永遠の命の重要性を知らしめるために、このような聖絶をお命じになったと思われます。

またそれは主に敵対する者のさばきの現実をも表します。私たちはみなかつては主に敵対するもので、自分勝手な歩みをしていました。アイの民のように滅ぼされるべきものであったのです。しかし、主はイエス様にその罰を負わせて、身代わりとして私たちを無罪としてくださいました。滅ぶべきアイの民から、神の民イスラエルにしてくださったのです。感謝し、そしていつまでも神の民として生き続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？